
安倍首相と 歴代保守首相との違い

立憲フォーラム・戦争をさせない1000人委員会 共催
安倍政治を終らせよう 6.19院内集会

6月19日（月）午後5時～ 参議院議員会館 講堂

講師：保阪正康（ノンフィクション作家・昭和史研究家）

15日朝、参院本会議で共謀罪法案を採決しました。このような重要法案を法務委員会の採決を省略、加計学園疑惑から逃亡する与党。このままでは国会が死んでしまいます。立憲フォーラムは19日夕「安倍政治を終らせよう」院内集会を開きます。立憲フォーラム議員が今国会の報告を行い、その後保阪正康さんに講演していただきます。

保阪正康さんは「歴代首相と憲法」（毎日新聞／5月13日）で「安倍晋三首相はこの5月3日にも、憲法改正の意志をあらわにし、それも2020年という時間を設定しての覚悟を示した。近代日本の首相の中で、これほど改正それ自体を強調し、どこをどのように変えるかの論点を明確にしない首相も珍しい。まず『改正ありき』では、論戦そのものが逆立ちしているように思えるほどだ」と書き出し、歴代首相の施政方針演説を紹介しています。いずれも自民党の首相です。

「軍国主義ト極端ナル国家主義トノ色彩ヲ完全ニ払拭（ひっしょく）シ、其（そ）ノ将来ニ於（お）ケル再生ヲ防止スル為（ため）」に努力（1946年 吉田茂）

「外においては、あらゆる国との平和維持に努力し、内には、国民福祉の向上に、最善を尽くす」（1972年 田中角栄）

「この日本の国土の上に、世界中の国々から信頼と敬意を勝ち得るように、真に安定した文明社会をつくり上げよう」（1977年 福田赳夫）

「今後とも、憲法の定める平和と民主主義、基本的人権尊重の理念を堅持し、国民の優れた力を結集して、わが国の将来を確かなものに」（1980 鈴木善幸）

そしてこれらの施政方針演説を読んで「戦後日本の歩んだ道は、この憲法によってつくられてきたとの強い認識を持った」と書いています。

戦争法や共謀罪はこうした“逆立ち”した安倍首相から出てきた訳で、昭和史の第一人者である保阪正康さんに保守首相との違いを語っていただきます。

◆共謀罪廃案！安倍政権退陣！6.19総がかり行動
午後6時30分～ 国会議事堂正門前 総がかり行動主催